読んだ本（ピーター・シス／文・絵　原田　勝／訳）　徳間書店

『星の使者　ガリレオ ガリレイ』

横浜市立大曽根小学校五年　寺岡（てらおか）　智哉（ともや）

有名な天文学者、ガリレオ・ガリレイ。僕はその人生を知りたくて、この絵本を選びました。ガリレイの壮絶な人生には、とても考えさせられました。ガリレオ・ガリレイという名前だけ知っていたので、こんなにすごい事をした人なんだと驚きました。

この絵本はまず、不思議、奇妙、きれい、色んな事を思わせる独特の絵柄が面白かったです。

大勢の人が描かれた絵は、少し怖いなと思いつつ、当時の人々がどれだけ宇宙の真実が知りたかったかが分かりました。

荘厳な建造物が描かれている絵は、当時のイタリアが栄えていた事が分かりました。

文章には、その時起きていた事、歴史が書かれていました。ペストなどの病気が流行り何千人もの人が死んでしまった事や、ガリレイの人生が書いてありました。具体的には、ガリレイが地動説という真実に気付いたのに、ローマ教皇に地動説を信じるなと言われ、最終的には宗教裁判で有罪になってしまうのが悲しかったです。

今でこそ、ある程度分かる宇宙。でも当時はまだ分かる事は少なかったはずです。そんな未知のものを知ろうとするガリレイは強い心を持っていたんだなと感心しました。ロケットに乗って、地球を見られる人は数少ないですが、いつか自分も一回宇宙から星や地球を見てみたいです。

色んな人が、夜空や宇宙、星に、きれい、もしくは神秘的なイメージを持っていると思います。ですが、ガリレイの人生を考えながら見ると、宇宙と星が見える夜空がきれいなだけじゃなく、悲しさやはかなさも感じます。

悲しい結末を迎えたガリレオ・ガリレイの人生。ガリレイは望遠鏡をのぞき、星と希望を探していたんだと思います。